助成事業名称：

『被災保育園（幼稚園）の保育環境正常化のための緊急アドバイス支援』

１）本事業の目的（支援対象と解決したい課題）：

熊本地震被災後、１～２ヶ月後には熊本被災地域の小学校、幼稚園、保育園等のほとんどが再開されたが、特に被害の激しかった地域のひとつである益城町、御船町、熊本市東区を中心とした地区の幼稚園・保育園等では熊本県内全体の６分の１に当たる１１５施設が休園から開園したものの、実際には園庭や園舎の一部しか使えずにこどもたちの遊びと学びの保育環境に支障を来たしている状況が課題となっていた。しかしながら、これらの園に対して、園外からの支援としては、建築士会や建築学会の建築建屋に対しての危険度判定はあるものの、保育プログラムや、園庭、建物等を総合的に判断して、保育環境全般の正常化に対する包括的なアドバイス支援が不十分で現場がかなり困窮していることが明らであったため、こども環境学会の熊本地震震災復興支援として、上記被災地の保育環境の改善についてのアドバイスを行い、こどもたちの成育環境の向上を、保育環境の立て直しを支援することを活動の最重要課題と考え、本事業の目的もそこにある。

２）本事業の内容と活動経過：

こども環境学会では、平成 28 年 4 月 14 日の熊本地震派生後、1 週間余りを経た、4 月 23 日「熊本地震についての理事・代議員による緊急役員会議」を開催し、学会としての今後の支援のあり方を検討した。そして、「災害復興活動部会」を立上げ、被災地に対して具体的にどのような支援が可能かを検討し、前述したように益城町等の被害が激しかった被災地の保育環境の改善についてのアドバイスによる成育環境の向上を最重要支援課題と考え、活動を進めた。

こども環境学会としては、こどもたちや子育て世代の方々の PTSD（心的外傷後ストレス障害）からの回復に「遊び」が効果的であるという視点にたって、災害急性期よりも復旧期における支援活動内容を模索することを原則とし、被災から 1 ケ月余り経過した 5 月 24 日から現地踏査を数回行い、現地で既に、こどもたちや子育て世代のために緊急支援活動を実践しているユニセフや、セーブチルドレン・ジャパン、ワールドビジョン、ピースボート等と連携・情報交換、あるいは、『熊本地震・支援団体火の国会議』にも出席し、現地の関連行政機関（熊本県、熊本市、益城町等）、仮設避難所、保育園、幼稚園、小学校等を訪問・ヒヤリングを行い、最終的には、最も被害が激しかった益城町地域で、既に平常時に近いかたちで再開している保育園や幼稚園（益城町第五保育所だけは、既存施設が被災で使えず、益城中央小学校へ避難しての保育活動を行っていた）の保育環境の改善・活性化こそ、被災されたこどもたちや子育て世代の方々にとっての緊急課題であると判断し、その活動を主体とした支援を行うこととした。以下が主要活動概要となる。

1. 益城町第五保育所・第二幼稚園における保育環境改善緊急アドバイス

益城町の幼稚園・保育所に対しては現地を訪問し、被害状況を具体的に把握すると同時に、特に被害が激しかった第五保育所、益城町第二幼稚園については、園児の外遊びに重要な園庭や建物と園庭との間の中間領域であるテラスや縁側等の空間に沈下や破損被害があって保育環境に支障を来たしていたため、園全体の保育環境をより活性化する具体的な空間的アドバイスが必要であった。よって、園長先生と数度に渡る打合せを行い、今後の復旧から復興期における今後の施設改善の具体的なアドバイスをおこなうと共に、それを現状と計画というかたちで図面化して提示した。

特に、第五保育所は、避難先の小学校での保育活動再開、その後、仮設保育所へ転居が計画さていたが、既に建設が進んでいた仮設の園舎には、園庭や中間領域がまったく計画されておらず、保育環境としてかなりの改善が必要と思われたので、その整備の重要性を示す意味でも改善案を図面化により明確に示す必要があり、これを園と町に提示し、計画の一部が実際に改善された。

2. 保育園・幼稚園における保育環境改善アドバイスブック作成・配布

住環境の復興にまだまだ時間が必要な熊本地震被災地における保育環境の持つ重要性を感じていたので、益城町や熊本市の他の幼稚園、保育園に対しても、あそびを活性化することによる保育環境の改善のアドバイス支援を検討した結果、『保育環境における、あそび環境改善のためのアドバイスブック』

を作成し、配布することとした。

こども環境学会が、2011 年以降に行ってきた東日本大震災後における福島県や宮城県における幼児の成育環境支援活動で得た知見や、会員が今まで行ってきた保育環境活性化の実践や研究成果も踏まえた視点を、熊本県における状況に合わせて再整理し、大規模震災被災地における幼稚園・保育園の保育環境を活性化させるためアドバイスブックとしてまとめた。保育環境改善のための重要な視点について、ハード面、ソフト面、夫々について分類することで、ハード面については、園舎、園庭、中間領域に細分化した空間的アドバイス、ソフト面については、あそびのプログラムとして、対象年齢別に細分化したあそびのアドバイスとしてまとめた。アドバイスブックは 2 種類とし、幼稚園・保育園の保育者向けに作成したＡと、仮設住宅団地で暮らす子育て世代の方々やこどもたちのために作成したあそびメニュー的なＢを作成した。Ａは益城町と熊本市の主要幼稚園・保育園・こども園等に、Ｂは仮設住宅団地のみんなも家に配布することとした。

３）本事業の成果・効果：

本事業の成果としては、前述した１の緊急アドバイスについては、益城町第二幼稚園の復興計画（園庭や中庭周りの中間領域）、第五保育所では、仮設保育所の計画内容の一部が実現し、玄関やデッキ、園庭等の整備内容に実際の改善が見られた。第二幼稚園については、園長と町との今後の復旧計画において知見が採用されていくものと考えている。

『保育環境における、あそび環境改善のためのアドバイスブック』A,B については、年度末での配布であるので、今後、幼稚園・保育園や仮設住宅団地で、活用していただくことで、こどもたちの成育環境の活性化に、実際につながっていくものと確信している。

４）今後の課題および展望：

『保育環境における、あそび環境改善のためのアドバイスブック』は、保育園・幼稚園等では、保育者のための支援も兼ねて作成したが、保育者の被災後の心身の疲労の蓄積が懸念されているため、被災後１年が経過した今、再度、彼らの現状を調査、ヒヤリングして、更に何らかの支援策を提供する必要があるものと考える。

また、仮設住宅の皆の家用のアドバイスブックについては、配布するだけでなく、そのブックの使い方を提示するようなプレイリーダーを派遣してのイベントの必要性や、仮設住宅の敷地の条件によっては、日常の生活環境における外遊びを誘発させるための仮設のあそび場の設置の必要性も感じる。これについては、今回のベネッセからの事業助成のような支援先を検討していきたい。（筆責：佐久間治）

※文字数の目安：4つの項目を合わせて1200～1400文字程度。（2枚以上にわたっても結構です。）
※活動の様子がわかる写真とメディア等での紹介記事コピーなどをご用意いただき、次ページに画像を貼り付けてその説明を記載してください。
※報告書は、そのままウェブサイトなどでご紹介する可能性があります。特に画像に人物などが写っている場合は、掲載許可がとれているものでの報告をお願いいたします。
※画像は、別途データでお送りください。（印刷にたえられる解像度のものをお送りください）

写真や図版 及びその説明　（→別途添付資料参照のこと）

写真①　名称：

説明：

図版貼付スペース

写真②　名称：

説明：

図版貼付スペース

写真②　名称：

説明：

図版貼付スペース